## 神奈川近代文学館開館40周年記念企画

# 文学・どこへゆくのか

# 第III期 作家が受け継ぐもの

長く文芸ジャーナリズムのなかにあって、現代文学の実情を見てきた湯川豊と尾崎真理子をナビゲーターとして、現代文学の展開をたどる連続企画。第Ⅲ期では、第Ⅱ期に引き続き、作家が文学の伝統から、何を、どのように受け継ぐのか、現代に生きる作家たちの言葉を通して、文学のゆくえを探ります。3月に開催する最終回では、企画全体を通して見えてきた文学の現在と未来を展望します。

聞き手・ナビゲーター:湯川豊 尾崎真理子

① 宮部みゆき

2024年 10月14日(月·祝)

② 江國香織

2025年 1月26日(日)

③ 松家仁之

3月 2日(日)

④ 「文学・どこへゆくのか」 (対談:湯川豊・尾崎真理子)

3月30日(日)

## 各回とも 14 時開演(13 時 30 分開場)

会場 神奈川近代文学館 展示館 2 階ホール (定員220名・全席自由)

料金 各回 一般 1,200 円、神奈川近代文学館友の会会員 1,000 円 (税込)

\*未就学児の入場はご遠慮ください

#### 参加申込み方法

各回とも、お電話 (045-622-6666) またはホームページの申込フォームで、お名前・電話番号・参加人数をお知らせください。料金はそれぞれ当日のお支払い、先着順で定員になり次第受付を終了します。お申し込みをいただいた方には、当日 9 時 30 分から展示館 1 階ミュージアムショップで入場整理番号付きチケットを販売します。



申込フォーム ORコード

主催 県立神奈川近代文学館・公益財団法人神奈川文学振興会

横浜・山手 港の見える丘公園 Kanagawa Museum of Modern Literature

# **墨神奈川近代文学館**

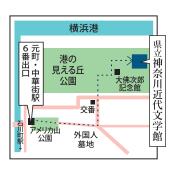
〒231-0862 横浜市中区山手町110 tel.045-622-6666 https://www.kanabun.or.jp

〈ACCESS GUIDE〉 ※駐車場がありませんので、公共の交通機関等をご利用ください。

〈東急東横線直通・みなとみらい線〉元町・中華街駅下車 6番出口 (アメリカ山公園口) から徒歩10分

〈バス〉いずれも「港の見える丘公園前」下車、徒歩3分

神奈川中央交通バス⑪系: 桜木町駅〜保土ヶ谷駅/横浜市営バス⑩系: 桜木町駅〜山手駅/観光スポット周遊バス「あかいくつ」 〈JR 根岸線〉石川町駅下車 元町口(南口)から徒歩20分





#### 宮部みゆき みやべ・みゆき

1960年、東京生まれ。法律事務所等に勤務の後、1987年「我らが隣人の犯罪」でオール讀物推理小説新人賞を受賞しデビュー。1992年「龍は眠る」で日本推理作家協会賞長編部門、「本所深川ふしぎ草紙」で吉川英治文学新人賞、1993年「火車」で山本周五郎賞を受賞。1999年「理由」で直木賞を受賞。2001年「模倣犯」で毎日出版文化賞特別賞、司馬遼太郎賞などを受賞。2007年「名もなき毒」で吉川英治文学賞、2022年、多くの人びとを読書に誘った功績により菊池寛賞を受賞。

#### 江國香織 えくに・かまり

1964年、東京生まれ。1987年「草之丞の話」で「小さな童話」大賞、2002年『泳ぐのに、安全でも適切でもありません』で山本周五郎賞、2004年『号泣する準備はできていた』で直木賞、2012年「犬とハモニカ」で川端康成文学賞、2015年『ヤモリ、カエル、シジミチョウ』で谷崎潤一郎賞など、数多くの文学賞を受賞。近著に『ひとりでカラカサさしてゆく』『シェニール織とか黄肉のメロンとか』『川のある街』。小説のほか、童話、エッセイ、詩、翻訳など多方面で執筆活動を行う。





#### 松家仁之まついえ・まさし

1958年、東京生まれ。1982年新潮社に入社、「新潮クレスト・ブックス」を企画、創刊。年季刊誌「考える人」を創刊。同誌と「芸術新潮」編集長を兼任。2013年『火山のふもとで』で読売文学賞を受賞。2014年、出版社・つるとはなの創立に参加。2018年『光の犬』で芸術選奨文部科学大臣賞、河合隼雄物語賞受賞。その他の著書に『沈むフランシス』『優雅なのかどうか、わからない』『泡』など。編著・共著に『新しい須賀敦子』『須賀敦子の手紙』、新潮クレスト・ブックス・アンソロジー『美しい子ども』がある。

#### 湯川豊ゆかわ・ゆたか

1938 年、新潟市生まれ。慶應義塾大学文学部卒業後、文藝春秋入社。「文學界」編集長、取締役・編集総局長などを経て 2003 年に退社。以後東海大学文学部教授、京都造形芸術大学教授など。編集者として大岡昇平、丸谷才一、須賀敦子など多くの作家を担当した。著書に『本のなかの旅』『夜の読書』『丸谷才一を読む』など。 2009 年刊行の『須賀敦子を読む』で読売文学賞を受賞。 2019 年には長編評論『大岡昇平の時代』を上梓した。





#### 尾崎真理子 おざき・まりこ

1959年、宮崎生まれ。青山学院大学文学部卒業後、読売新聞社入社。大江健三郎、谷川俊太郎6へのインタビューや評論執筆を行う。同社編集委員などを経て、2022年まで早稲田大学教授。著書に『現代日本の小説』、『大江健三郎 作家自身を語る』(大江氏との共著)など。『ひみつの王国 評伝 石井桃子』で芸術選奨文部科学大臣賞、同作品を含む執筆活動により日本記者クラブ賞、『大江健三郎の「義」』で読売文学賞受賞。神奈川文学振興会理事。

- ・神奈川近代文学館 デジタル文学館 (https://www.kanabun.or.jp/material-data/digital-literature-museum/)
- ・神奈川近代文学館 公式 note (https://kanabun-museum.note.jp/)





デジタル文学館

公式 note

2024年10月12日(土)~12月8日(日) 特別展「安部公房展——21世紀文学の基軸」 2025年1月5日(日)~3月9日(日) 常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち 第2部 芥川龍之介から中島敦まで」

開館時間: 9:30~17:00 (入館は16:30まで)